

檀原市議会
議員選挙
2月2日

「いいことはいいい、
あかんことはあかん」
賛否と決断に責任を。

檀原市議会議員候補 | 現職最年少

36歳

うすい卓也 たくや

頒布責任者：神野重徳／奈良県檀原市大軽町289-8 印刷者：アイティーエージェンシー／奈良県檀原市土橋町225-11

ピラを手を取ってくださりありがとうございます。

4年前、1,931名の方が僕に檀原市議会議員2期目を託してくださいました。

今期は副議長の職を拝命し、時には市と手を取り合い、時には市と対峙し、二元代表制における議会のあり方を模索しました。

また市庁舎建設事業等特別委員会の委員長として、市を二分するような議論のなか、市民の皆さまにとって何がベストなのかを念頭におき、フェアな委員会運営を徹底し、一致点を見出しながら前進させてきました。

どんな役職や立場になっても僕が変わらず軸とするのは、「何よりもまず、あなたから」です。対面やお電話はもちろん、SNS でも質問箱を設け、900件を超えるご質問やご相談に答えてきました。学校の事やご家庭の事、内容は様々ですが、政治の課題はその中にこそあります。

これからも、「右でも左でも上でも下でもない、あなたの目線で」というスタンスを貫き、檀原市にとって、あなたにとって、うすい卓也が希望となれるように全力を尽くしていきます。

どうか、「うすい卓也」に託してください。

うすい卓也

市長派？
反市長派？

市長をトップとする市と、議員で構成される地方議会は、それぞれ独立し、対等な立場で議論を行う関係性で、これを二元代表制といいます。

この二元代表制において、「市長派」「反市長派」という言葉には強い違和感があります。市の提案に対し、手放しに賛成することはチェック機能としての職務を放棄していますし、何が何でも反対することも適切な形とは言えません。

市と議会の関係は、よく『車の両輪』に例えられます。前へ進むためには摩擦が必要ですが、ブレーキがきかなかつたり、空転したりしてはいけません。協力と緊張のバランスが大切です。

市民の代表として「いいことはいいい、あかんことはあかん」という姿勢で賛否を決め、決断に責任を持つ。この姿勢を、僕は大事にしています。

民、信なくば立たず

我々議員は、高い倫理観を持ち、信頼される存在でなくてはなりません。しかし残念ながら、公正中立な予算審議に疑義が生じかねない事案があったため、榎原市議会政治倫理条例の改正を提案し、可決されました。僕が問題提起をする際には、解決策の提示も心がけています。

また、法や規則を重視しない議会運営が見受けられる時には、厳しく指摘をしています。社会の決まりごとをつくるルールメーカーの議員が自分達に甘い態度では、信頼を得られないからです。

僕は政党や会派で議員を区別しません。ヨイシヨイすること、目の敵にすることもありません。

忖度無しの行動こそが、信頼感と魅力のある議会へ繋がると信じています。



討論のあと、新たな避難所の確保まで、避難所としての機能は残ることになりました。

賛否二分・問題提起

入場者の減少、修繕費や維持費等に多額の費用がかかることから、令和五年十二月議会に廃止する議案が上程された「やわらぎの郷」。存続を求める千筆を超える署名や複数の要望書が提出され、市にとって苦渋の決断だったと推察します。ただ、ここは指定避難所でありながら、市は代替となる避難所を考えていなかったのです。

地震に加え、豪雨や洪水災害の増加で避難所の重要性が叫ばれていて、市内の避難所の数も十分でない中、僕はこの廃止に賛同できず、反対討論に立ちましたが、残念ながら賛成がわずかに上回り、やわらぎの郷は閉館となりました。「減らす・止める・無くす」だけでは政治は不十分です。これから体温の感じられる政治を大切にしていきたいと思います。

「楽しむ」が叶う街

僕の祖母は、出かけることも食べることも好きですが、足が悪いため、訪問先は限られます。

ご年配の方やハンデのある方、妊婦さんや子どもが訪れやすい街は、市民にとっても暮らしやすい街です。そこで「ユニバーサルツーリズム（誰もが楽しめる旅）」の推進を提言しました。

実現には、皆が共に取り組めるように、行政が先頭に立つ必要があります。単にスローガンを掲げるだけではなく、例えば、市内事業者さんにも新規開拓というメリットを感じていただければ、街全体が思いやりと活気に包まれ、訪れる人は勿論、外出を諦めていた市民にも明るい光になります。皆が楽しみを共有できるような、はぐくみの街の実現を今後も求めていきます。



うすいの提言で動く

“わたしの声が届いている”

あなたの課題を市の課題とし、現実的な提言で前へと進める。それが僕の政治です。

子ども



当事者である子どもの声を大切に

「榎原市いじめ防止基本方針」に、子どもの視点が抜けていることを指摘。全小中学生にアンケートが行われ、「策定に際しては、児童生徒等の意見を取り入れる」という文言が追加。

SNS に送られてきた中学生からの相談で感じたことでした。

家庭



すべての生き方を肯定する

ひとり親家庭の養育費の受領率の低さを問題視。国の補助金を活用し、養育費確保のための支援事業を提言。市は R7 年度の補助金申請に向け、採択内容の検討をすると答弁。

シングルで頑張っている友人の姿を見て感じたことでした。

福祉



まずは現在地の把握から

生活にお困りの家庭の実数把握をしていないことを問題提起。現状を知ったうえで、自己満足ではない効果的な政策を打ち出す姿勢が大事と指摘。市は把握方法を考えると答弁。

ご年配の方から生活に関する相談を受けた時の会話がきっかけでした。

防災

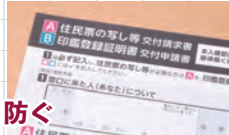


みんなにやさしい街へ

色覚特性のある方にも見やすいハザードマップの作成と、子どもやお年寄り、ハンデのある方にも理解しやすい「やさしい日本語」での災害情報の発信を提言。市は改善に着手。

色覚特性やハンデのある方との会話の中で気づいたことでした。

情報



特殊詐欺や差別を防ぐ

市が第三者による住民票等の不正取得を把握できた場合に、事前登録がなくても被害者に通知する「被害告知型通知制度」の必要性を提言。市は実施していくと答弁。

人権問題に関するお話を伺ったことがきっかけでした。

議会



検討しっぱなしは×

議員が行った一般質問に対して、市が「検討する」という答弁をしたその後、議会として追う追跡調査を提言。市は議会からの要請に対して協力すると答弁。

「あの提案は結局どうなったん？」という声を受けたことがきっかけでした。